

獣医師の需給見通し案について

第3回獣医師の需給に関する検討会資料項目

第2回検討会の概要

獣医師の需給見通し案について

獣医師の需給見通しに関する報告書について

第2回検討会の概要

1 日時等

日時:平成19年3月12日(月)14:00～16:00

場所:農林水産省第2特別会議室

2 議事概要

(1) 資料に沿って事務局から説明

(2) 主な意見等については以下のとおり。

家畜の飼養頭数について

獣医師数の将来推計に当たっては「食料・農業・農村基本計画」に基づく家畜飼養頭数を利用しており、将来、現状より飼養頭数が増加するとしているが、飼養頭数が現状維持で推移すると仮定した場合の需給見通しも必要ではないか。

2006年の需要と供給に乖離が認められる点について

事務局から提出された資料では、2006年(推計開始年)における需要と供給に乖離があるので、これを一致するよう推計値を修正することが必要ではないか。

犬猫の受診回数の将来見通しの推計について

犬猫の受診回数の将来見通しの推計に当たっては、その根拠となるデータについて日本獣医師会の協力を得て整理してはどうか。

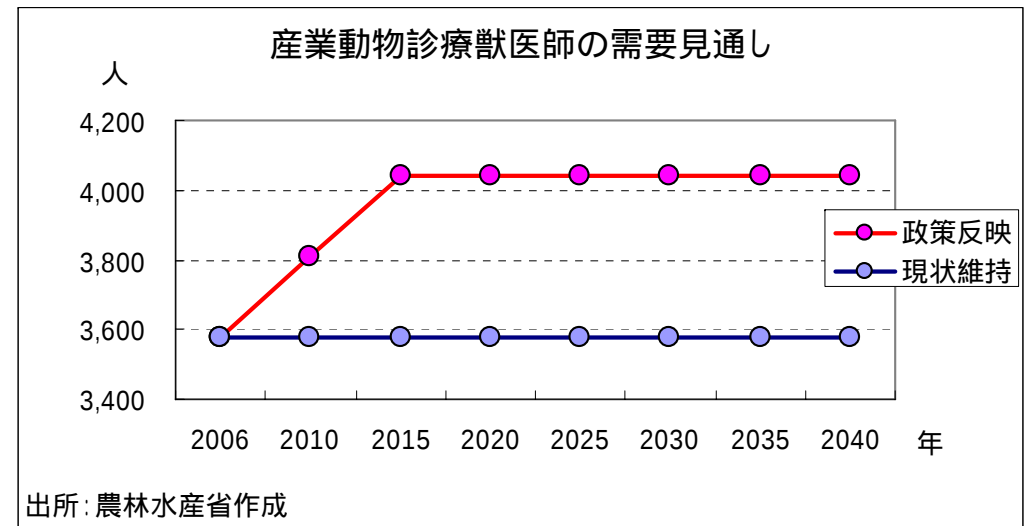
(3) 上記(2)の ～ の指摘を踏まえ、第3回の検討会において所定の修正を加えた資料を整理することとなった。

獣医師の需給見通し案について

1 産業動物獣医師の需要見通しの修正

産業動物診療に必要な獣医師数については、食料・農業・農村基本計画において定められた2015年の畜産物の生産努力目標の達成に必要な家畜の飼養頭羽数に基づき、算出した。

一方、このような政策努力目標を勘案しない場合として、現状の家畜の頭羽数が今後増加しないものとする推計も行った。



○ 政策努力目標を勘案した場合

	2006	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040
肉牛	1,798	2,035	2,272	2,272	2,272	2,272	2,272	2,272
乳牛	1,053	1,050	1,046	1,046	1,046	1,046	1,046	1,046
豚	260	260	260	260	260	260	260	260
鶏	155	155	155	155	155	155	155	155
馬	310	310	310	310	310	310	310	310
計	3,576	3,809	4,042	4,042	4,042	4,042	4,042	4,042

農林水産省作成

単位：人

2 2006年時点の需給の乖離の見直し

現在得られている推計によれば2006年時点で獣医師の需給に産業動物診療獣医師において600人、小動物診療獣医師において2,200人程度乖離が生じていた。

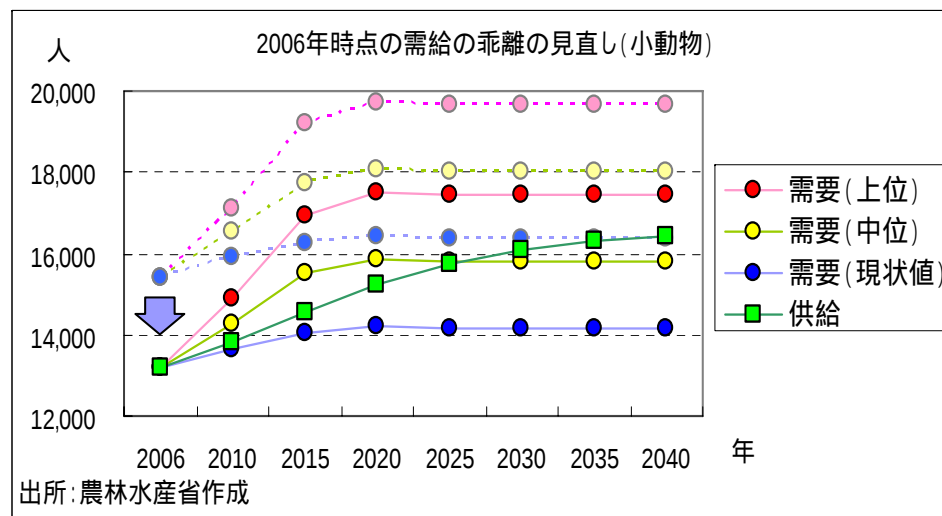
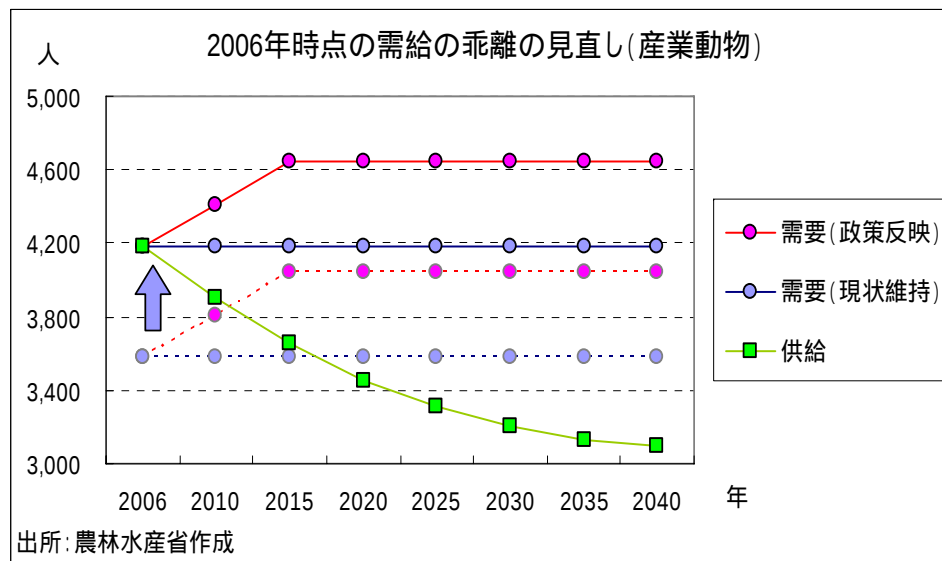
一方、今回の調査手法では、現状の獣医師の診療実態に基づき必要獣医師数を算定していることから理論上は、需給の乖離は生じない。

この乖離については、

今回行う需給見通しの作成は、現時点での獣医師の過不足を把握することを目的としているものではなく、将来的な獣医師の需給の見通しを予測することにあること

今回実施した診療施設に対する調査が、産業動物診療施設において実態よりもより効率性が高い診療施設に対して行われた可能性があること等調査結果の誤差に起因するものであると推定されること

から、2006年時点での産業動物診療獣医師及び小動物診療獣医師の需給が一致するよう必要獣医師数の見通しを修正することとした。



3 犬猫の年間診療回数の将来推計の見直しについて

飼育者に対する調査によれば、犬猫1頭当たりの平均診療回数は犬1頭当たり3.25回、猫1頭当たり1.97回であり、将来とも一定であると仮定した。

将来の犬猫の平均診療回数の見通しについては、より正確に推計を行うため、将来の地域ごとの世帯数及び世帯主構成の変化も勘案して将来時点での年間診療回数の推計を行うこととした。

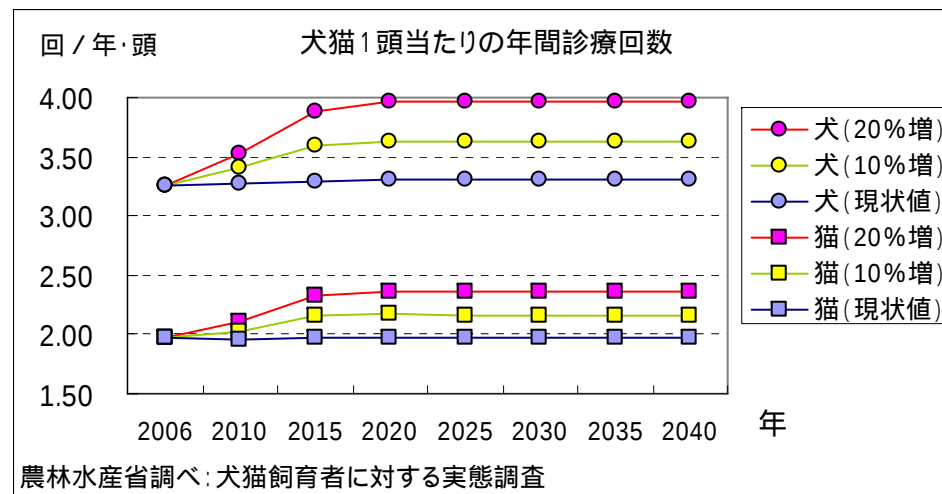
これに加え、飼育者の飼育意識の変化に伴い、どの程度年間診療回数が伸びるかについては、前回の推計の通り、今後10年間で年間診療回数が10%増加する場合を中位推計、20%増加する場合を上位推計とすることとして必要獣医師数を算出することとした。

これは、現在の関東地域における年間診療回数の程度まで全体の平均の年間診療回数が伸びる場合15%程度の伸びが見込まれることを踏まえ、ある程度の幅を持たせて推計を行ったものである。

○ 犬猫1頭当たりの年間診療回数(地域別)

	平均利用回数(回/年・頭)	
	犬	猫
北海道	3.12	1.67
東北	2.65	1.57
関東	3.73	2.12
北陸	2.75	1.99
東海	3.15	1.97
近畿	3.42	1.99
中国	2.72	1.83
四国	2.72	1.61
九州	2.59	1.83
平均	3.25	1.97

農林水産省調べ:犬猫飼育者に対する実態調査



4 小動物診療施設における診療効率化について

近年、小動物診療施設における獣医療補助者の雇用が増えており、獣医師のみが行うことができる診療業務以外の業務を担っている。

日本獣医師会により、小動物診療施設における業務のうち約3割は獣医師以外の者でも代替できる業務であり、現在その半数程度は獣医師以外の者により実施されているとの調査が示されている。

また、日本獣医師会より、今後さらに獣医療補助者による業務の代替が進むとすれば現在より10%程度診療効率が上昇することが予測されるところの意見が示されている。

したがって、診療効率が上昇した場合、獣医師1人当たりの診療可能頭数が上昇することから、仮に今後10年間で10%診療効率が上昇した場合における獣医師の需給見通しについても推計することとした。

小動物診療施設における獣医師と獣医師資格を有しないものの業務分担に係る調査(日本獣医師会)

調査対象： 日本獣医師会員である小動物診療施設開設者

調査状況

調査地域	調査数	回答数
北海道	10 名	8 名
東北	15 名	13 名
関東	30 名	27 名
中部	10 名	9 名
近畿	10 名	8 名
中国・四国	10 名	9 名
九州	15 名	13 名
合計	100 名	87 名

調査結果

- 1 小動物診療施設の全業務において、当該施設の開設者が「獣医師資格を有しない者でも実施可能」と考える業務の割合は、平均で32.2%であった。
- 2 上記1の業務のうち、当該開設者が獣医師資格を有しない者に実施させている業務の割合は、平均52.3%であった。
- 3 当該開設者の77%は、「獣医師資格を有しない者でも実施可能な業務は、獣医師以外の者を雇用して獣医師の業務を効率化させたい」と考えていた。

5 獣医師の需給見通し案について

(1) 産業動物診療獣医師の需給見通し

今後の需給見通しについては、

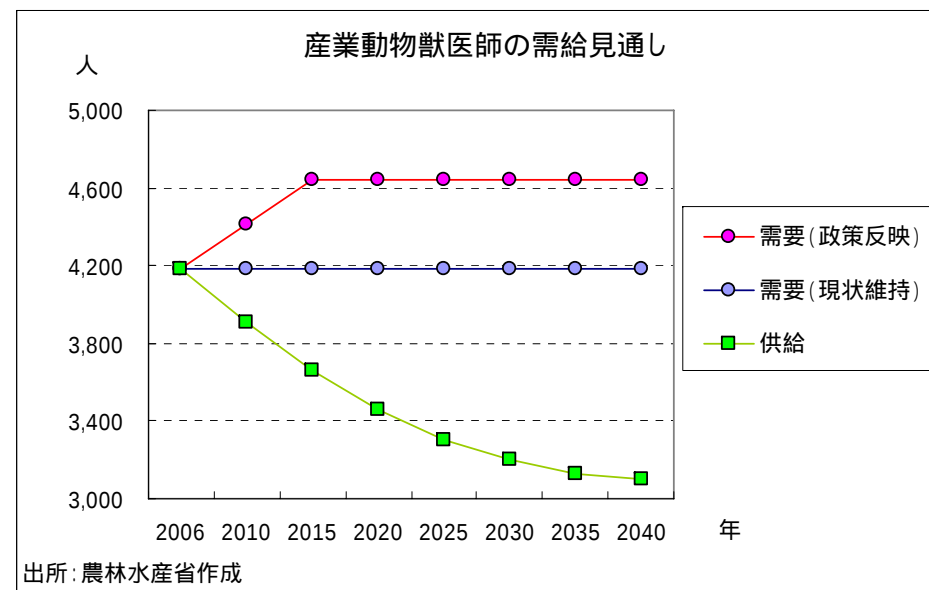
ア 政策目標値を勘案する場合

今後、政策努力目標を勘案した将来の家畜の飼養頭羽数に基づき推計した場合、2015年時点で1,000人程度、2040年には1,500人程度の不足が見込まれた。

イ 政策目標値を勘案しない場合

今後、政策努力目標を勘案せず現在の家畜の飼養頭羽数が今後も一定であると仮定して推計した場合、2015年時点で500人程度、2040年には1,100人程度の不足となることが見込まれた

したがって、家畜の飼養頭数について政策目標値を勘案するか否かにかかわらず今後産業動物獣医師が不足していくことが見込まれることとなった。



	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040
需要 (政策反映)	4,413	4,646	4,646	4,646	4,646	4,646	4,646
需要 (現状維持)	4,180	4,180	4,180	4,180	4,180	4,180	4,180
供給	3,904	3,660	3,456	3,307	3,201	3,131	3,102

出所：農林水産省作成

単位：人

(2) 小動物診療獣医師の需給見通しについて

ア 小動物診療の効率化を勘案しない場合

今後犬猫の健康管理に対する飼育者の意識が変化せず、1頭当たりの年間診療回数が伸びないケースにおいては、今後、供給が需要を上回ることとなり、2020年時点において1,000人程度、2040年時点では2,300人程度供給が需要を超過することとなった。(現状値推計)

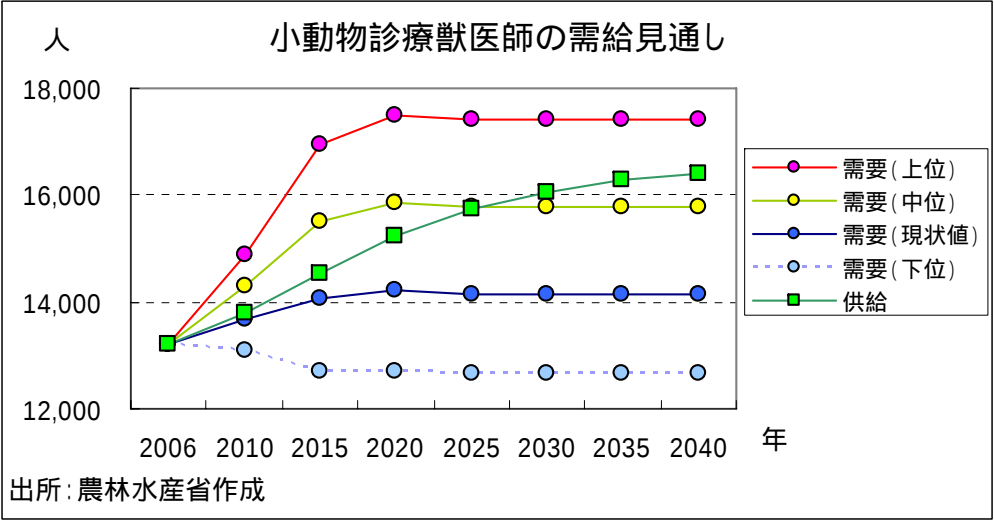
犬猫の診療回数が10年間で10%増加すると仮定した推計においては、2025年頃までは需要が供給を上回るものの、2040年時点では、600人程度供給が需要を上回った。(中位推計)

また、犬猫の年間診療回数が20%増加すると仮定した推計では、需要が供給を上回り、2020年時点において2,300人程度、2040年頃においてもなお、1,000人程度需要が供給を上回った。(上位推計)

イ 小動物診療の効率化を勘案する場合

犬猫の年間診療回数が現状値で推移した場合は、2020年時点で2,500人程度、2040年時点で3,700人程度供給超過となった。(下位推計)

また、この場合において犬猫の診療回数が10%、20%増加するケースでは、それぞれ現状値推計、中位推計の需給見通しと一致することとなった。



	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040
需要(上位)	14,869	16,956	17,499	17,431	17,433	17,433	17,433
需要(中位)	14,285	15,511	15,855	15,793	15,793	15,793	15,793
需要(現状値)	13,667	14,053	14,211	14,154	14,154	14,154	14,154
需要(下位)	13,072	12,714	12,716	12,665	12,665	12,665	12,665
供給	13,807	14,551	15,245	15,748	16,062	16,299	16,408

出所: 農林水産省作成

単位: 人

小動物診療獣医師の需要推計の前提条件の組み合わせ

	犬猫の年間診療回数	獣医師一人当たりの診療可能頭数
需要(上位)	20%増加	現状維持
需要(中位)	20%増加	10%増加
	10%増加	現状維持
需要(現状値)	10%増加	10%増加
	現状維持	現状維持
需要(下位)	現状維持	10%増加

(3) 獣医師総数の需給見通し

ア 現状値推計

2020年以降、600人から900人程度必要獣医師数が供給数を上回った。

イ 上位推計

2020年以降、4,000人から4,200人程度需要が供給を上回った。

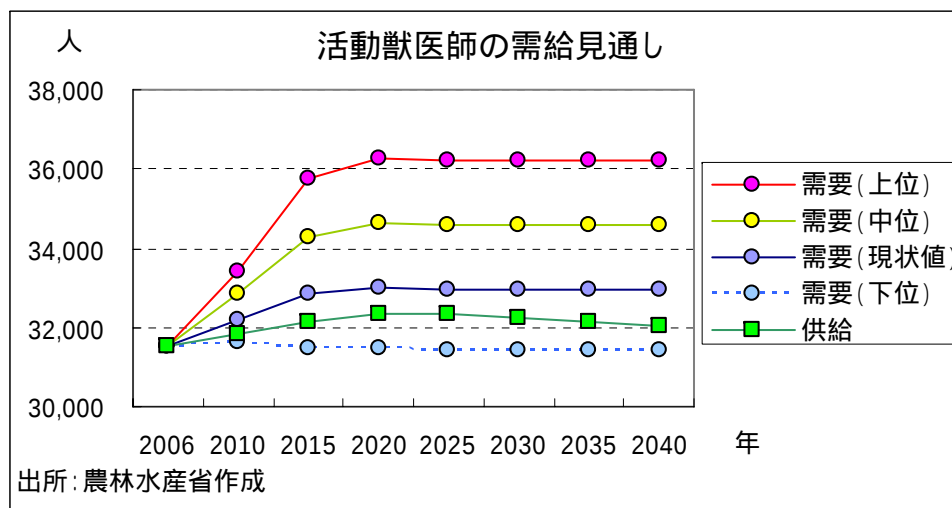
ウ 中位推計

2020年以降、2,300人から2,500人程度必要獣医師数が供給数を上回った。

エ 下位推計

2020年時点で850人程度、2040年時点では600人程度供給が需要を超過することとなった。

一方、家畜の飼養頭数の政策努力目標を勘案しない場合においては、それぞれ500人程度需要が減少することとなった。



	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040
需要(上位)	33,417	35,737	36,280	36,212	36,214	36,214	36,214
需要(中位)	32,833	34,292	34,636	34,574	34,574	34,574	34,574
需要(現状値)	32,215	32,834	32,992	32,935	32,935	32,935	32,935
需要(下位)	31,620	31,495	31,497	31,446	31,446	31,446	31,446
供給	31,843	32,157	32,349	32,322	32,235	32,126	32,031

出所：農林水産省作成

単位：人